

品質管理教育の継続的なレベルアップについて

新井 聡
AGS 株式会社
sarai@ags.co.jp

1. 自己紹介

勤務先:

AGS株式会社. 埼玉県さいたま市に所在. 都市銀行のシステム子会社から出発し, 金融関連, 一般法人, 地方自治体, 公共団体などの法人顧客向けにシステムを開発, 運用している.

勤務先での役割:

銀行向け汎用機系システムを手始めに, ダウンサイジング, オープン化, Web化の流れの中でアプリケーション開発を担当. 約 2 年前から現在の品質保証部門を担当するようになった. 主要開発案件の品質管理, 開発標準プロセスの改善, プロジェクト管理者育成, クレームトラブル情報の集約・管理などが主な担当業務.

趣味:

写真撮影, テニス, 地震雲?の観察

SSへの参加は初めてとなります.

2. 教育に関して実施している内容や取り組み

社内向けに, 開発標準プロセス, プロジェクト管理, 基礎的な開発技法に関する研修を開催し, 教育支援を行っている.

最近ではITSSをベースにしたプロジェクトマネージャの社内認定制度の検討に参画し, 案件規模に応じたプロジェクト体制の強化という課題に取り組んでいる.

3. 討論したい内容

現場部門と品質保証部門の, 品質管理, プロジェクト管理, 人材教育に関しての温度差に悩んでいます. 当社に於ける品質保証部門は全社的なリスク管理の一環として活動していますが, 組織的には事業本部制という枠組みの外側にいるため, 目標とした品質との乖離に対して十分な手当てができないケースが発生する可能性があります.

また温度差を低減させる目的で品質保証部門と開発部門の間で要員ローテーションを行っていますが, そのことが逆に品質保証部門の専門性向上(経験値の蓄積)を妨げることに繋がっており, 継続的な品質管理への取り組みの難しさを感じています.

開発部門に対しての品質管理教育の充実とそれを支える品質保証部門自身の継続的なレベルアップに関して, 皆さんと討論したいと考えています.

4. WSに期待すること

人材教育に関する以下のような点についても, 皆さんの環境や経験について伺いたいと思います.

- ・人材教育に関する役割分担(人事部門, 品質保証部門)
- ・プラットフォームや開発技術が多様化する中で, 開発部門や案件ごとに異なる技法・製品が採用された場合の技術継承

教育に関する諸問題は組織論や人事施策ともリンクしているため, そちらの方向に議論が進みがちになってし

まいりますが、同時に、根本的な部分は「教育」が支えているという認識を持ち、対策を具現化していかないと実効性のある解に繋がらないと感じています。

以上